

喜びの 3 段階

最近求められる人間の能力として、「他喜力」「幹事力」が必要だと言われています。どちらも色々な事を通じて、他人を喜ばせる事が人間として大事な能力と考えられている事の現れであります。我々の医療・看護・介護の業界も当然利用者様を喜ばせる事が一番の目的であり、必要な能力です。今回は、『仕事の記録帖』より「喜びの 3 段階」をご紹介します。

私たちは誰も喜びと幸せを求めてこの世に生まれてきたといわれています。
これは人間の本能ともいえるものですが、それには 3 段階があるといわれています。

第 1 段階は「与えられる喜び」です。

生まれたばかりの赤ちゃんから 100 歳のお年寄りまで、人間は人から愛情やモノを与えられると喜び、幸せを感じることができます。

第 2 段階は「できる喜び」です。

これは会話ができたりモノを作ったり、さらに運動ができたときの喜びで、それも高度なことができると喜びは一層大きなものとなります。

第 3 段階は「与える喜び」です。

愛情やモノを他の人に与えることによる喜びですが、これは子どもではできないで「大人の喜び」といわれています。そして人間としての喜びを一番感じる事なのです。

人間の成長においては、「子どもは自分の喜ぶことしか考えない。大人になるということは、他人の喜びを考え、実行することだ」といわれています。

私たちは、大人でしょうか、それとも子どもでしょうか。

1) 人間の喜びの 3 段階は何ですか？

() () ()

2) あなたは、大人ですか？子供ですか？大人の方は、どの様な喜びを与えましたか？

()